

第14回全国統計大会

2500人が参集 小学生も研究発表

第14回全国統計大会は、全国統計協会連合会主催、九州8県の後援、各省庁の協賛で都道府県、市町村の統計関係者約2,500名を集めて南国情緒豊かな長崎県長崎市公会堂で去る11月13、14の両日開催された



会場風景 (外観)

本県からも県並びに市町村等から34名が出席参加いたしました。

日程は13日午後6時から公会堂において前夜祭を行ない盛大なうちにも和やかに遠路はるばる参会した我々を慰めると同時に明日の本大会の盛儀のほどをしのばせた

先づ田川長崎市長の歓迎のあいさつ、県警察音楽隊の演奏、谷口典子、高橋房子さん等の「長崎の鐘」「長崎の雨」「長崎のお蝶さん」等の歌謡曲があり、長崎芸能会の「春雨」「うかれ唐人」長崎民族舞踊研究会の「浜踊」「のんのこ節」「月琴節」等の民芸を披露し、最後に県広報映画「長崎の印象」のカラー映画を上映、午後8時30分参会者拍手のうちに前夜祭を終了した。

14日の大会は午前9時30分開会、佐藤長崎県知事田川長崎市長、大会々長有沢広己氏のあいさつがあり、大内賞をはじめ総理大臣、行政管理庁長官、経済企画庁長官、文部大臣、通商産業大臣、労働大臣、全統連会長及び特別功労者や第11回統計図表コンクール入選者の表彰など各種の表彰が順調に行なわれ、来賓の祝辞、受賞者総代の謝辞があつて譚事に移る。先づ議長の選任、議案の説明、審議委員付託等で午前中の行事は終り休憩昼食、午後の研究発表では、「郷土福島県の開発について」東北ブロック代表福山第3小学校4年生織田剛蔵君「市町村統計における標本調査について」中国ブロック代表島根県統計課脇田裕氏、九州ブロック代表として佐世保小学校6年生倉田博久君等5名が「運動と脈搏の関

係、児童会活動における統計の利用」と題してそれぞれ貴重な研究の結果を発表した。引き続き行政管理庁統計基準局長後藤正夫氏が司会し、農林省統計調査部長久我通武氏、教大教授美濃部亮吉氏、長崎県副知事小松直行氏、十八銀行調査室長松崎善二郎氏らによる「統計に親しませるには」と題してのパネル討議があり、残り議案を審議し、宣言決議、有沢会長の記念講演があり午後5時閉会した。

大会終了後の慰安演芸はNHK佐々木アナの司会で宮崎県の岩戸神楽、佐賀県の面浮立等九州各県の代表的芸能が午後8時迄賑やかに披露され、参加者を楽しませた。

今回の長崎市における全国統計大会において表彰された本県関係者は次のとおりである。(敬称略)

文部大臣表彰 茨城県
行政管理庁長官感謝状 茨城県拓務課長 根本 倉吉
(前統計課長)
全国統計協会連合会会長賞 石岡市役所 金子 順 蔵
第11回統計図表全国コンクール入選者

第1部 (小学校の部)

佳作 猿島郡三和村諸川小学校5年 染谷 達 雄
稲 葉 香
宝田 利 則

第2部 (中学校の部)

特選 (結城市の桐下駄) 結城市立結城中学校
3年 山家 つや子
宮田 栄子
入選2席 (結城市のかんぴょう) 結城市結城中学校
2年 松本 和子
鈴木 光枝
入選4席 (郷土の誇る民芸品結城紬) 結城市結城中
学校 3年 高城 恵子
老田 洋子



会場風景 (内観)

大 内 賞 受 賞 者

1963年度

(アイウエオ順)

- 宇 都 宮 肇 東京芝浦電気株式会社総務部機械計算課長
(業績) 昭和13年から25年間、統計実務に従事するとともに、民間の統計機構の充実と組織化に努力し、同時に官庁統計の制定、改善ならびに実施において協力し、統計の進歩に貢献した。
- 上 島 長 蔵 無 職
(業績) 明治42年から47年間、一貫して、統計、実務に従事して、地方統計の改善と育成に努力し、統計の進歩に貢献した。
- 遠 藤 英 男 特殊法人日本観光協会次長
(業績) 昭和5年以来、通算23年間、統計実務に従事して、運輸統計の整備と各種分類大系の確立につとめ、統計の進歩に貢献した。
- 三 浦 喜 代 一 経済団体連合会資料部長
(業績) 昭和13年から25年間、統計実務に従事するとともに、民間における統計の充実と官庁統計の改善に協力し、統計の進歩に貢献した。

各 省 表 彰 受 賞 者

内閣総理大臣表彰

- 労働力調査 山形県 長野県 静岡県 岡野県 岩手県 埼玉県 愛知県 青森県 宮城県 奈良県 秋田県 鹿児島県 山梨県 宮城県 福島県 栃木県 岩手県 埼玉県 鳥取県
- 小売物価統計調査
- 個人企業経済調査
- 家計調査
- 就業構造基本調査

文部大臣表彰

昭和37年度教育統計調査

- 徳島県 神奈川県 石川県
秋田県 宮城県 山形県
岩手県 香川県 茨城県

労働大臣表彰

昭和37年度毎月勤労統計調査

- 山形県 栃木県 和歌山県
埼玉県 愛媛県 大分県
鳥根県

通商産業大臣表彰

- 各種統計調査総合優良 静岡県
工業統計調査 岐阜県
生産動態統計調査 岡山県
繊維流通統計調査 神奈川県
商業統計調査 千葉県
商業動態統計調査 栃木県
京都府
秋田県
長崎県

行政管理庁長官感謝状

- 山形県 都 築 正 英
茨城県 根 本 倉 吉
神奈川県 斉 藤 太 次 郎
愛知県 小 笠 原 愛 二
京都府 鳥 井 貞 雄

郷土産業めぐり (4)

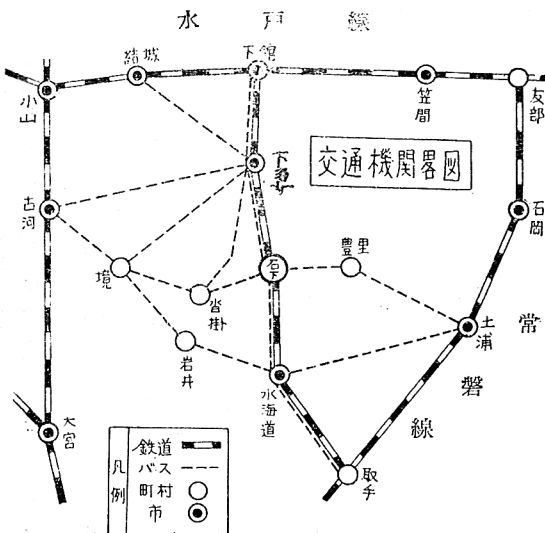
石下紬の巻

前回は笠間焼を御紹介いたしました。今回は本県紬の双壁として結城紬と共に有名な石下紬の産地石下町を探訪してみよう。

ここ石下町は県西部、水海道市と下妻市との間にあり、人口2万弱の農村都市で常総平野の中心であり見わたすかぎりの田畑で囲まれている。

戦後28年6月町村合併の気運にのり、旧石下町を中心に、古来歴史的にも、産業、経済、文化、人情、習慣などにも、それぞれの共通点が多く、順調に合併し、鬼怒川の清流をまん中にはさんで理想的な農村都市をつくりあげた。

本町地域は、慶長年間には石毛と称していたが、徳川幕府検地の際、石下と改められた。今回の合併のときも石毛と改名説もあつたが実現せず、石下町がそのまま町名として採用された。



町の中央は常総筑波鉄道が走り、東西をつなぐ唯一のかけ橋石下橋を通過して北へ4キロ国生には、「土」で有名な長塚節の生家があり現在県の指定文化財になっている。

本町の7割が耕地という農村地帯で、米、麦、大豆、菜類の産出は豊富で古くから穀倉といわれる豊田地区があり、畑地も砂質壤土が多く桑の生育も良く養蚕を本業または副業としている農家が多い。このように考えると、ここに織物の発達した素地とよい環境にめぐまれていたわけである。あまり前がきが長くなるのでこの辺で本題の石下紬の話しにうつる。

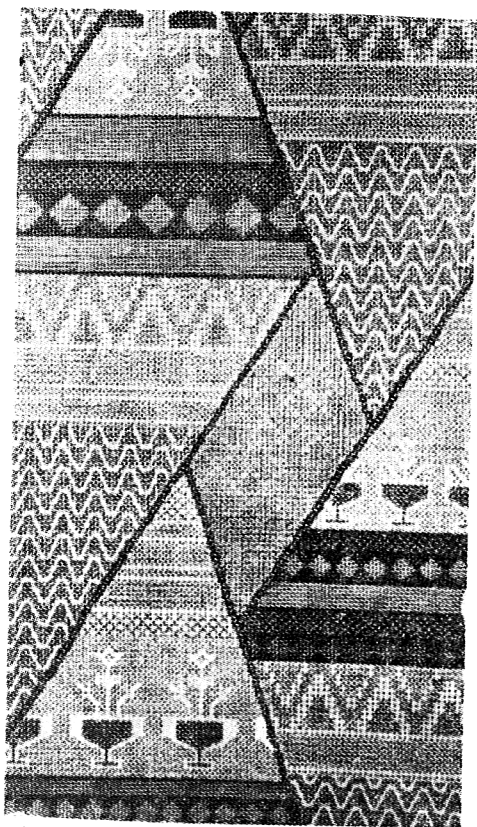
最近、和装の流行から絹織物のブームを再現活況を呈している。石下紬もまた本県の代表的織物「結城紬」と肩を並べ特産物となつている。

この特産物石下紬について少しく調べてみよう。石下紬で代表される石下織物も歴史は非常に古く、慶長年間から商工業の町として栄えてきた石下町も今は鬼怒川をはさんで東西に分れ大きな町にふくれ上つた。織物は旧石下町を中心にして生産されている、元文年間という約230年前にさかのぼる、当時からこの鬼怒川沿岸には木綿と藍草の栽培が盛んに行なわれていた。(このケースは年代こそ異なるが本場結城紬の発展史と同様である)

付近住民は衣服の自給と生活の補いに、木綿から糸を造り藍草から染料を造つて織物を創造したのがそもそもの初まりと伝えられ、これが石下紬の前身をなしている。当時結城木綿として明治の中期頃までは、各家庭に1、2台の地機があつて機織は婦人達の大切な仕事であつた。明治中期以後唐糸の出現と化学染料の発達によつて絹や藍の栽培が減少の一途をたどり明治末期には殆んど

その姿を消した。

その後養蚕業の発達により絹糸の使用に着目し絹と木綿の交織を考案、明治40年緯糸に強燃加工の技術を応



〔石下紬の模様〕

用、ここに絹綿交織いしげ紬が生れたのである。これより先明治26年石下織物声価維持のため業者挙つて一丸となり同業組合を組織しその振興を計り努力の結果今日の繁栄をみるに至つたのである。

現在では紬のほか、絹織、交織、お召、ウール化繊なども生産されるようになり、染色と模様についてもたえず研究が続けられ最近ではますます品質が向上し、その名声をいやが上にもあげている。その結果、東京、関西方面にまでも需要の道を拓きつつある。

組合員64名と非組合員10名が従業員と共に600台の織機を動かし年間18万反の生産をあげている、そ

の額は5億5千万円の巨額に達している。

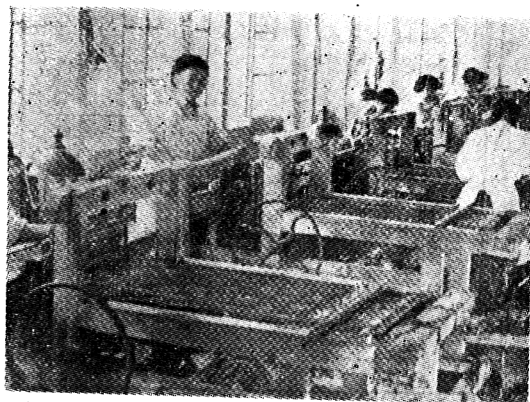
生産内容を見ると、絹綿交織石下紬60%、正絹石下紬15%、化繊織物ウール製品その他25%となつている。

石下紬の名称は、品名の統一が話題となつたとき採用された呼称であり、同一品質の製品でも取扱う商社によつて独自の名称を付すので全体統一は未しの感がある。一例をあげると絹田紬、筑波紬、結城紬御召、結城玉紬、結城縮、豊田紬、本場玉結城紬、本場結城御召紬、結城九重御召、筑波結城等いずれも石下紬の変名である。

いずれにしてもこれら織物は本場結城紬の姉妹品の名にふさわしく風合い、感触、外観共にその重厚さに魅力を感じ都会婦人の家庭着又は普段の外出着として愛用されていることはその販路が大都市に集中されていることでも明らかである。殊に単衣用としての交織ちぢみ織、袷衣用として正絹石下紬等は本県の誇りとする情緒豊かな民芸織物でもある。

この物産を抱く町として、農業振興を主軸に体質改善を図らんとする町政の中に在つて、別の面から力強い支援をおしみなく与え育成発展に寄与していることは、石下紬の前途に一大光明となつて鬼怒の流れがつきないように箴の音もこの地から永久に消えないことであらう。

(取材=統計課横田主事)



〔工場風景〕